

**令和5年度
分かりやすい栄養成分表示の取組に関する
調査事業報告書**

本報告書は、みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社が調査事業を実施し、「分かりやすい栄養成分表示の取組に関する検討会」及び消費者庁が取りまとめたものです。

目次

第1章	はじめに	3
第2章	栄養成分表示制度をめぐる事情について	4
1.	我が国の健康・栄養政策の動向について	4
2.	我が国における栄養成分表示	5
3.	国際機関における包装前面栄養表示ガイドラインの公表	9
第3章	一般消費者、管理栄養士、食品関連事業者へのインタビュー調査	10
1.	調査参加者の選定及び属性	10
2.	インタビュー調査の方法等	12
3.	インタビュー調査の結果	14
第4章	我が国における包装前面栄養表示の検討の方向性	28
1.	我が国の健康・栄養政策との整合を踏まえた上で、包装前面栄養表示として 取り組むべき栄養課題	28
2.	消費者がふだんの食生活において栄養成分表示を利活用しやすくするために効 果的な方策	31
3.	消費者への取組であることを優先しつつも、「健康的で持続可能な食環境づく り」の推進の観点から食品関連事業者の実行可能性が担保される方策（導入に 向けて検討する際の主な検討課題）	33
第5章	おわりに	35
	「分かりやすい栄養成分表示の取組に関する検討会」構成員名簿	36
	「分かりやすい栄養成分表示の取組に関する検討会」開催経緯	37

第 1 章 はじめに

2015（平成 27）年から容器包装に入れられた一般用加工食品及び添加物には、食品表示基準に基づき、熱量及び栄養成分の量の表示（以下「栄養成分表示」という。）が義務付けられている。その一方で、食品表示については、食品表示基準において容器包装の見やすい箇所に行うこととされているが、実際の栄養成分表示の表示場所は容器包装の裏面とされることが一般的である。

また、2023（令和 5）年に健康日本 21（第三次）が公表され、今後の健康・栄養政策において、健康的で持続可能な食環境づくりの推進が図られる。これを好機として、栄養成分表示等を通して消費者の健康の維持・増進に資する食環境づくりを後押しすべきタイミングを迎えている。

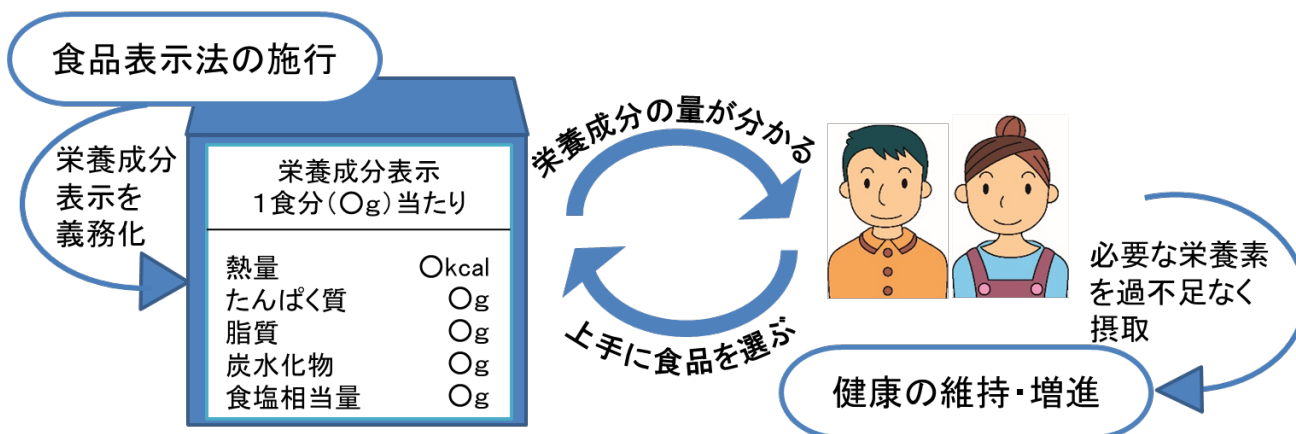
他方、諸外国では栄養成分表示の見にくさや分かりづらさを補足する取組として、包装前面栄養表示（以下「FOPNL」という。）が導入されており、2021（令和 3）年 11 月のコーデックス委員会において、FOPNL ガイドラインが採択された。国内においても自主的な取組として FOPNL を採用する食品関連事業者が存在する。

本会合はこうした状況を踏まえ、我が国の FOPNL の在り方等を検討するために実施されたものであり、2023（令和 5）年 11 月から 2024（令和 6）年 3 月にかけて全 3 回にわたり議論を行った。今般、その結果を取りまとめたので報告する。

第2章 栄養成分表示制度をめぐる事情について

2015（平成 27）年から容器包装に入れられた一般用加工食品及び添加物には、食品表示基準に基づき栄養成分表示が義務付けられ、2020（令和 2）年 4 月 1 日から完全施行となっている（図 1）。

図 1 食品の熱量や栄養素の量が分かる栄養成分表示制度



1. 我が国の健康・栄養政策の動向について

栄養成分表示制度は我が国の健康・栄養政策と連携した施策である。2015（平成 27）年に食品表示基準が制定された際には、厚生労働省が 2014（平成 26）年に策定した「日本人の食事摂取基準（2015 年版）」を踏まえ、食品表示基準における栄養素等表示基準値や栄養機能食品に関わる規定の内容及び基準値の見直しを行った。

また、文部科学省が 2015（平成 27）年に公表した「日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）」や 2020（令和 2）年に公表した「日本食品標準成分表 2020 年版（八訂）」を受けて、2021（令和 3）年に食品表示基準における栄養成分の分析方法の見直しを行った。

厚生労働省は「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」や「東京栄養サミット 2021」における日本政府のコミットメントを踏まえ、産学官等連携による推進体制として「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」を 2022（令和 4）年 3 月に立ち上げ、減塩の推進等栄養面の視点を軸としつつ、事業者が行う環境面に配慮した取組にも焦点を当て、誰一人取り残さない食環境づくりを推進している。また、同省は 2023（令和 5）年に健康日本 21（第三次）を公表し、今後の健康・栄養政策において、健康的で持続可能な食環境づくりの推進について新たな目標を掲げている。

2. 我が国における栄養成分表示

(1) 栄養成分表示制度について

栄養成分表示制度における栄養成分の位置付けについては、「消費者委員会 食品表示部会 栄養表示に関する調査会」での検討を経て、消費者の摂取状況等を踏まえ消費者への表示の必要性があること、事業者にとって表示が実行可能であること及び国際基準と整合していることなどを勘案し、その全てを満たすものを義務表示、消費者への表示の必要性があるものを推奨表示としている（図2）。

栄養成分表示は、消費者の適正な体重の維持や食塩摂取量の減少に資する情報として、例えば、食塩相当量を比較して、食塩の少ない加工食品を選択できることなど、消費者の適切な食品の選択を促す食環境づくりに資する取組の一つである。

図2 栄養成分表示における義務・推奨・任意表示の考え方と表示例

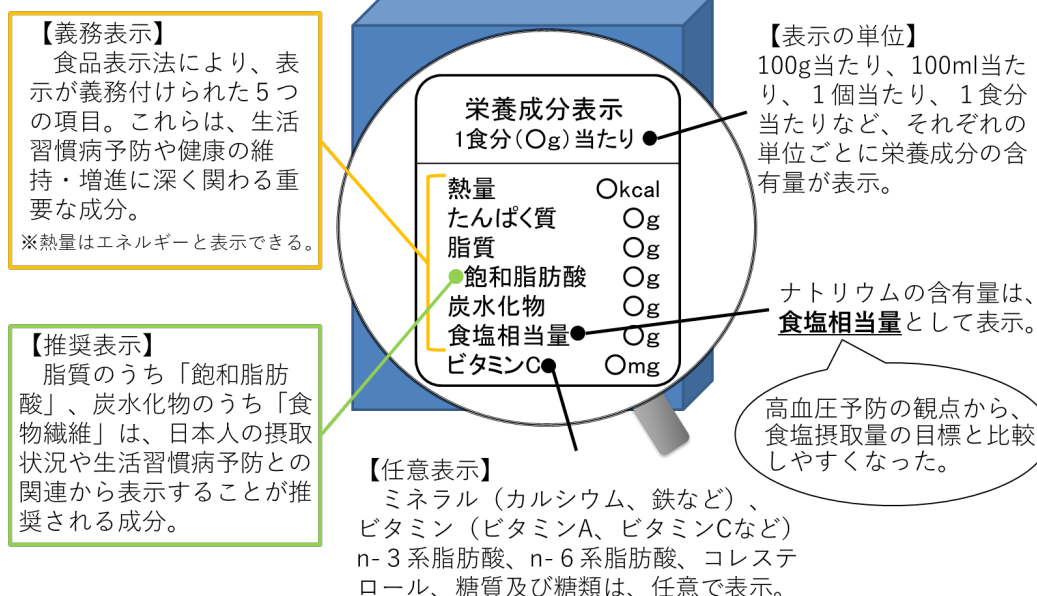
	消費者への 必要性 ^{※1}	事業者の 実行可能性 ^{※2}	国際整合性 ^{※3}	対象となる栄養成分等
義務表示	○	○	○	熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（食塩相当量に換算したもの）
推奨表示 ^{※4}	○		△ (飽和脂肪酸)	飽和脂肪酸、食物繊維
任意表示			△ (糖質、糖類)	糖質、糖類、トランス脂肪酸、コレステロール、ビタミン類、ミネラル類（ナトリウムを除く）

※1 国民の摂取状況、生活習慣病との関連等

※2 日本食品標準成分表の数値収載率等

※3 コーデックス委員会の栄養表示ガイドライン等

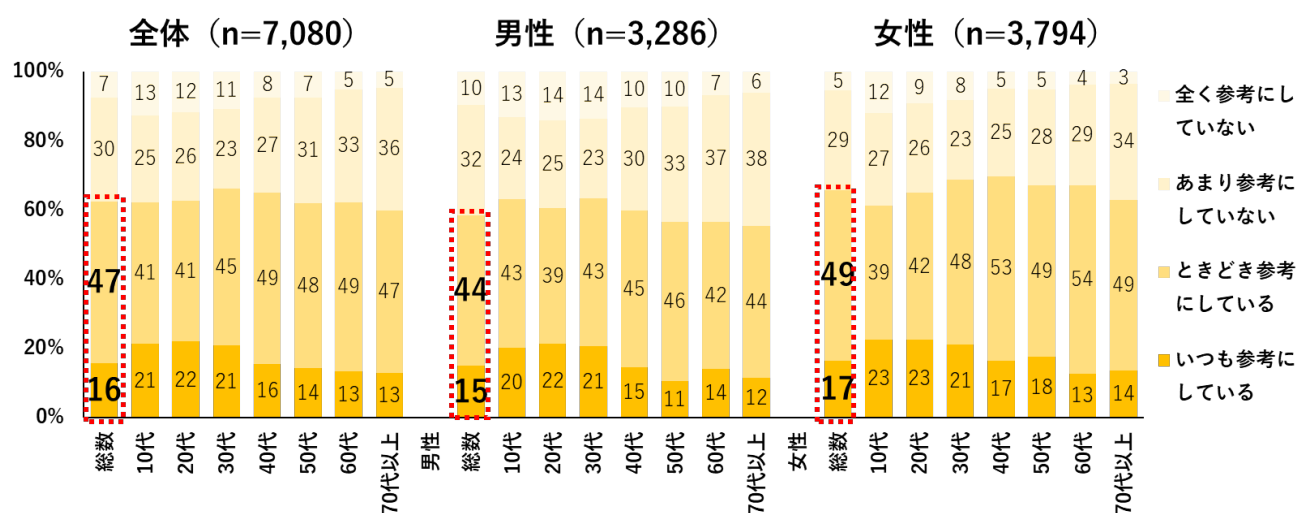
※4 消費者にとって表示の必要性が高いものとして将来的に義務化を目指す項目として設定するもの



（２）消費者における栄養成分表示の意向

消費者庁が実施した「令和４年度食品表示に関する消費者意向調査」において、食品に栄養成分が表示されていることを知っている者の割合については、全体が71%、男性が68%、女性が73%であった。この食品に栄養成分が表示されていることを知っている者と回答した者（全体 10,000 名のうち 7,080 名）において、食品の購入時など、ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者の割合については、全体が63%、男性が59%、女性が66%であり、消費者が栄養成分表示を一層利活用しやすくする取組が求められている（図３）。

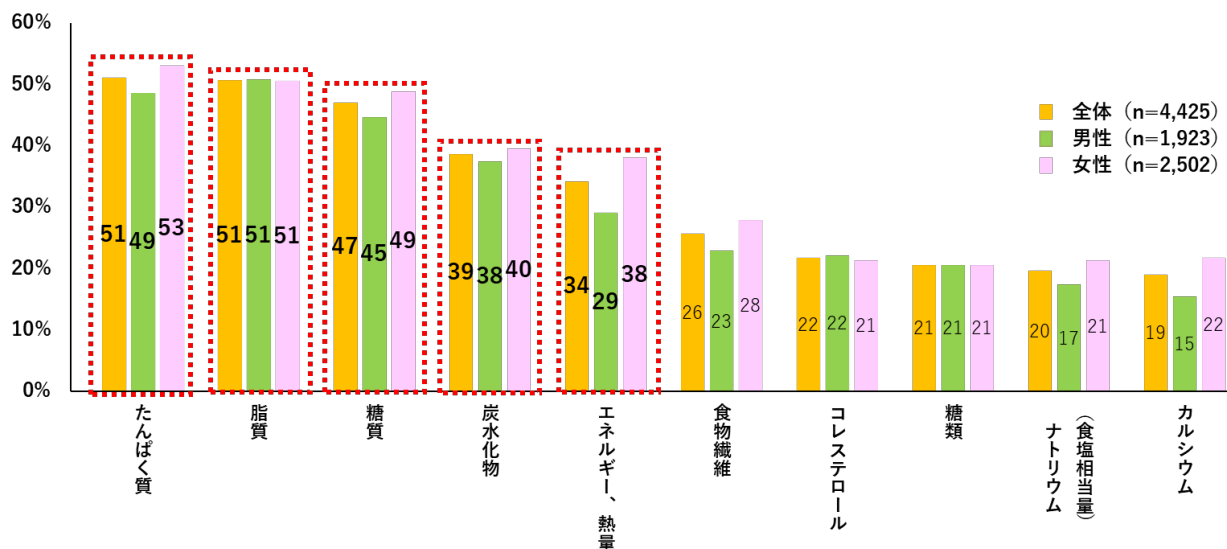
図３ 消費者における栄養成分表示の参考の程度



（出典）令和４年度食品表示に関する消費者意向調査（消費者庁）

また、食品に栄養成分が表示されていることを知っている者と回答した者で、かつ、ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者（全体 10,000 名のうち 4,425 名）において、食品の購入時に確認する栄養成分については、「たんぱく質」、「脂質」、「糖質」、「炭水化物」、「エネルギー、熱量」の順に回答が多かった。その一方で、食品の購入時に「ナトリウム（食塩相当量）」を確認する者の割合については、全体が20%、男性が17%、女性が21%であった（図４）。

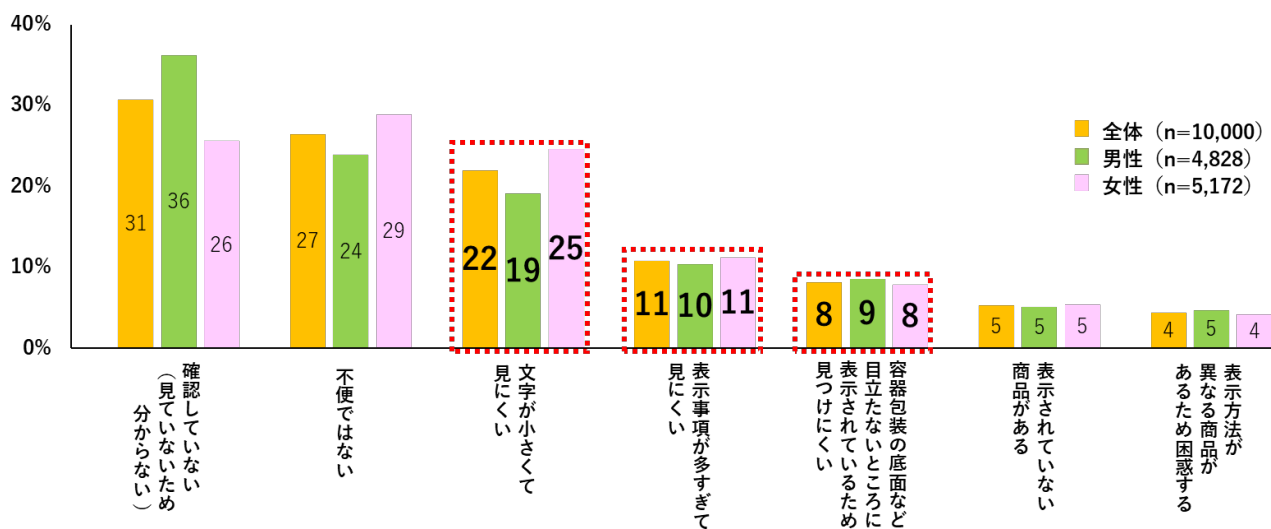
図4 消費者が食品の購入時に確認する栄養成分



(出典) 令和4年度食品表示に関する消費者意向調査 (消費者庁)

同調査において、容器包装に表示された栄養成分表示について、知りたい情報を確認する際に不便に感じる点としては、「確認していない」、「不便ではない」に次いで、「文字が小さくて見にくい」、「表示事項が多すぎて見にくい」、「容器包装の底面など目立たないところに表示されているため見つけにくい」との回答が多かった (図5)。

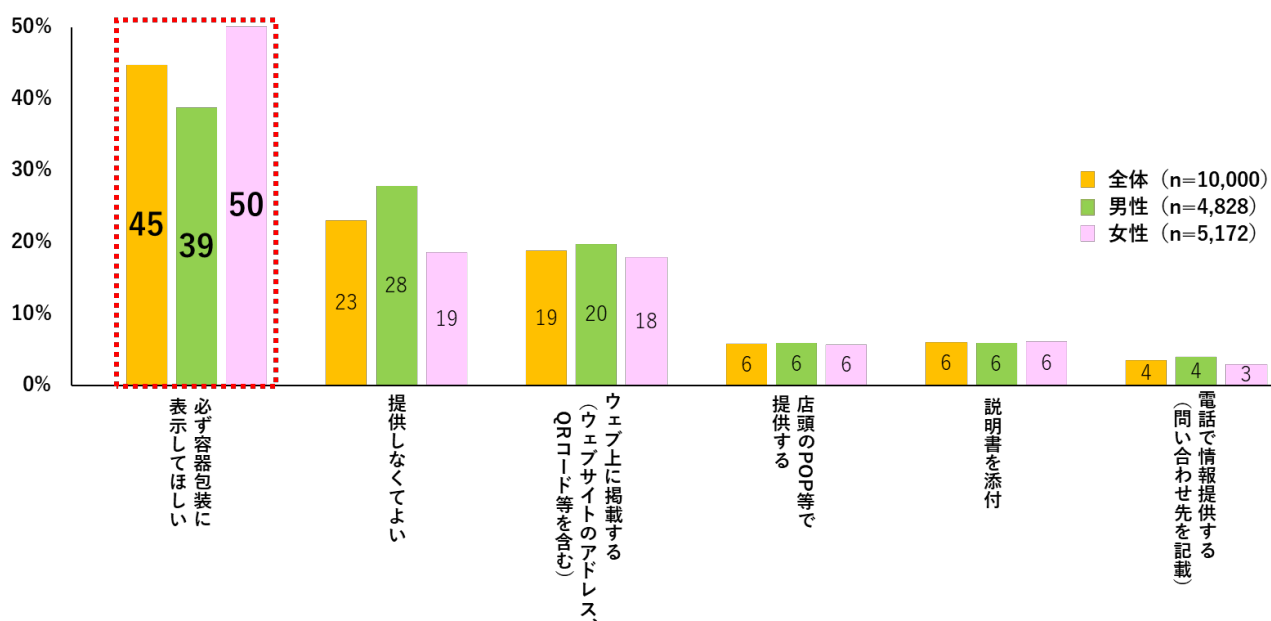
図5 消費者が栄養成分表示を不便に感じる点



(出典) 令和4年度食品表示に関する消費者意向調査 (消費者庁)

その一方で、表示の文字を大きくするために、容器包装に掲載する栄養成分表示をWebなどの別の方法で情報提供する場合、なくしてもよいか、また、なくした場合、どのような提供方法に変更することが良いと思うかについては、「必ず容器包装に表示してほしい」との回答が最も多かった（図6）。

図6 消費者が望む栄養成分表示の情報提供方法

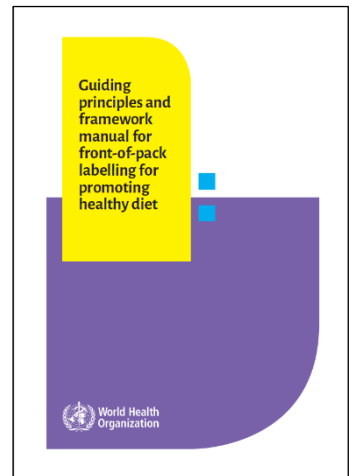


（出典）令和4年度食品表示に関する消費者意向調査（消費者庁）

3. 国際機関における包装前面栄養表示ガイドラインの公表

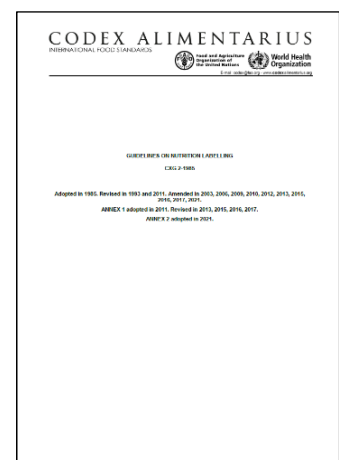
WHO は 2019（平成 31）年に消費者の健康的な食品選択を助けるため、諸外国における重要な政策ツールであるとして、FOPNL ガイドライン「Guiding principles and framework manual for front-of-pack labelling for promoting healthy diet」を公表している。なお、当該ガイドラインにおいては、次のような原則が掲げられている。

- FOPNL は、WHO やコーデックス委員会のガイドライン等の健康・栄養政策に沿ったものであるべきである。
- FOPNL の効果を高めるように、単一の取組を開発すべきである。
- FOPNL のためには、栄養成分表示の義務化が前提条件である。
- FOPNL の一部として、モニタリングや評価する仕組みについても開発すべきである。
- FOPNL の目的、対象食品及び一般原則については、理解しやすく、かつ、簡単にアクセスできるようにすべきである。



また、コーデックス委員会では 2015（平成 27）年に開催した第 43 回食品表示部会から FOPNL の議論を開始しており、2021（令和 3）年に開催した第 46 回食品表示部会において全てのセクションの検討を終了し、栄養表示に関するガイドライン(CXG2-1985)の附属文書 2 に FOPNL ガイドライン「GUIDELINES ON FRONT-OF-PACK NUTRITION LABELLING」を位置付けることに合意した。その後、2021（令和 3）年に開催した第 44 回総会において当該ガイドラインを承認している。なお、当該ガイドラインにおいては、次のような原則が掲げられている。

- 国内の法律に沿って、任意又は義務とすることができる。
- 各国で政府が推奨する FOPNL は 1 つだけであるべきである。
- 根拠に基づいた国又は地域の食事ガイダンス若しくはそれがない場合は健康・栄養政策に沿ったものでなければならない。
- FOPNL は政府主導であるべきであるが、民間部門、消費者、学界、公衆衛生学会などを含む全ての利害関係者と協働して開発すべきである。



第3章 一般消費者、管理栄養士、食品関連事業者へのインタビュー調査

消費者にとって分かりやすい栄養成分表示への改善や我が国の FOPNL の取組について検討するため、4 つのグループに対してフォーカスグループインタビュー調査を実施し、質的帰納的分析を用いて課題や改善案等を取りまとめた。

1. 調査参加者の選定及び属性

現行の栄養成分表示の課題や FOPNL を含めた今後の改善案等を検討するため、次の4つのグループごとに5名の調査参加者を選定することにした。

- 一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者
- 一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしていない者
- 管理栄養士
- 食品関連事業者

また、一般消費者、管理栄養士、食品関連事業者のいずれも「関東近圏に在住する者であること」、「当該調査のために録音、録画を了承する者であること」の条件をもとに選定した。

(1) 一般消費者

一般消費者については、大規模調査パネルの登録者に対してスクリーニングを実施し、次の4つの条件を踏まえた上で、本人から承諾が得られた者から調査参加者を選定した。

- 自分又は同居人のために食品を購入する者であること。
- 栄養成分表示に関して、専門知識を持つ立場にある可能性がある者ではないこと。
- 各種疾患の食事療法や宗教上の理由による食事制限がある者でないこと。
- 調査参加者の職種については、グループ内で著しく偏りがないようにすること。

また、スクリーニングで「あなたは、食品に栄養成分が表示されていることを知っていますか。」の設問に「知っている」と回答した者で、「あなたは、食品の購入時など、ふだんの食生活において栄養成分表示をどの程度参考にしていますか。」の設問に対して、「いつも参考にしている」又は「ときどき参考にしている」と回答した者を「栄養成分表示を参考にしている者」と見なした。

また、「あまり参考にしていない」又は「全く参考にしていない」と回答した者を「栄養成分表示を参考にしていない者」と見なした。

①一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしている者

	年齢	性別	子ども	世帯	職種等	生活習慣病
1	20歳代	女性	なし	一人暮らし	学生	なし
2	30歳代	男性	なし	夫婦のみ	会社員（不動産業、物品賃貸業）	なし
3	40歳代	女性	なし	一人暮らし	会社員 （サービス業（他に分類されないもの））	なし
4	50歳代	男性	あり	核家族	会社員（情報通信業）	あり
5	60歳代	女性	なし	一人暮らし	派遣・嘱託・契約社員（金融業、保険業）	あり

②一般消費者：ふだんの食生活において栄養成分表示を参考にしていない者

	年齢	性別	子ども	世帯	職種等	生活習慣病
1	20歳代	女性	なし	一人暮らし	学生	なし
2	30歳代	女性	なし	夫婦のみ	会社員（運輸業、郵便業）	なし
3	40歳代	男性	あり	核家族	会社員（情報通信業）	なし
4	50歳代	女性	なし	一人暮らし	会社員（不動産業、物品賃貸業）	なし
5	60歳代	男性	あり	核家族	自営業・自由業 （不動産業、物品賃貸業）	あり

（２） 管理栄養士

公益社団法人日本栄養士会を通じて調査協力を依頼し、許諾が得られた管理栄養士を調査参加者とした。

	年齢	性別	職種等
1	30歳代	女性	医療業
2	30歳代	女性	保健衛生
3	40歳代	男性	医療業
4	40歳代	女性	持ち帰り・配達飲食サービス業
5	40歳代	女性	地方公務

（３） 食品関連事業者

一般社団法人食品表示検定協会を通じて調査協力を依頼し、許諾が得られた上級食品表示診断士を持つ食品関連事業者を調査参加者とした。

	年齢	性別	職種等
1	30歳代	女性	食料品製造業
2	30歳代	男性	食料品製造業
3	40歳代	女性	飲食店等
4	50歳代	男性	食料品製造業
5	50歳代	女性	食料品製造業

2. インタビュー調査の方法等

(1) インタビュー調査前日まで

調査参加者に対して、インフォームドコンセント及びインタビュー調査当日の資料やインタビューガイドを共有し、併せて質問項目に対する事前回答を依頼した。

(2) インタビュー調査当日

ファシリテーター1名とタイムキーパー1名が、インタビューガイド等に基づき、各グループで1時間30分程度のフォーカスグループインタビューを実施した。なお、ファシリテーターは他の調査参加者の発言を受けて、更に思いついたことはないか等の質問を促すこと、会話が栄養成分表示から大きく逸脱した場合に話題を戻すことのみ対応することとした。

(3) 逐語録の作成及び質的帰納的分析

録音した音声データや録画した映像データを確認しながら、インタビューでの発言から逐語録を作成した。次に、この逐語録から意味単位でフラグメントを抽出し、意味内容が損なわれないように配慮しながら簡潔な要約文を生成した。

その後、同じ意味内容が含まれる要約文を集め抽象度の高いコードを生成した。最後に、同質性が高いコードを集め、更に抽象度を高めてカテゴリー及び論点を整理し、一覧表化した。

なお、質的帰納的分析は2名の管理栄養士(質的帰納的研究の経験者を含む)で実施し、インタビューのグループ単位で行った。当該分析は各グループのデータを2回ずつ分析し、最後に合意形成を図った上で結果として取りまとめた。また、インタビュー調査の結果の記述については、【論点】、〈カテゴリー〉、[コード]、〔要約文〕で表記することとした。

参考：インタビューガイド（調査参加者用）

A. 挨拶及び基本ルールの説明	
(5分程度)	<消費者庁からの説明>
B. 栄養成分表示制度及びFOPNL等の取組の説明	
(5分程度)	<消費者庁からの説明>
C. 調査参加者からの自己紹介	
(5分程度)	<消費者庁に続き、調査参加者からの自己紹介>
D. 現行の栄養成分表示についての意見交換	
(30分程度)	栄養成分表示は、「文字が小さいこと」、「表示場所が分かりにくいこと」などが課題として挙げられていますが、なぜ栄養成分表示が分かりにくいと感じられてしまうと思いますか。また、この分かりにくいを解決するためには何が必要だと思いますか。
E. 日本版FOPNLについての意見交換	
(30分程度)	栄養成分表示の欠点である「見にくさ」や「分かりにくさ」を解決する取組として、最近ではパッケージの前面に栄養成分表示をする食品も存在しますが、皆さんにとって分かりやすい栄養成分表示とはどのようなものだと思いますか。
F. クロージング	
(10分程度)	<消費者庁から>

3. インタビュー調査の結果

(1) 一般消費者

① 現状の栄養成分表示の捉え方

栄養成分表示を参考にしている者の【現状の栄養成分表示の捉え方】は、〈気になるので見て購入する〉、〈気になる所は見てから悩む〉、〈気になる時に気になるものを見る〉、〈気が向けば見る〉、〈分からないので気にしない〉というものであった。特に、[買い物の度見ている]、[スポーツ経験から表示をよく見て意識していた] など〈気になるので見て購入する〉者、[体に悪いと言われていたトランス脂肪酸とかが入っていると、これはやめておこうかなと思うことはたまにある] など〈気になるところは見てから悩む〉者、[総菜パンや冷凍食品など物によっては見る]、[カロリーだけは気にして見る] など〈気になる時に気になるものを見る〉者が調査参加者に存在していた。

栄養成分表示を参考にしていない者については、[カロリーさえも見っていない]、[まわりの友達は似たような人が友達になるのか、買うものの裏を見る人は見たことがない]などの〈全く意識していない〉者がいた。しかし、〈知識がないから見たとしても分からない〉と考えている者、さらには、〈自分の気になるところは見ている〉者もいた。そしてその内容は、[お菓子なら砂糖が一番上にきているので、砂糖が多いからやめようということはあるが、たんぱく質がどうのというのは知識がないから、見ても「そうなんだ」という程度]など[知識がないから見てもそうなんだという程度]の者から、[原材料や着色料とか添加物とか変なものが多いからやめようかなと思うくらい]などの[悪い情報は目につくので見る程度]の者、[A 菓子では B 成分が入っているのが有名になっているが、そういった健康成分は検索して調べたりする]などの[健康成分やカロリーなどは気になるので見る]者が調査参加者に存在していた。

< 栄養成分表示を参考にしている者 >

気になるので見て購入する

- ✓ 買い物の度見ている
- ✓ スポーツ経験から表示をよく見て意識していた

気になる所は見てから悩む

- ✓ トランス脂肪酸が入っているとやめようか悩む

気になる時に気になるものを見る

- ✓ 惣菜パンや冷凍食品など物によっては見る
- ✓ カロリーだけは気にして見る

気が向けば見る

- ✓ 気が向けば程度

分からないので気にしない

- ✓ 自分の摂取量が分からないので気にしない

< 栄養成分表示を参考にしていない者 >

全く意識していない

- ✓ カロリーさえも見ない
- ✓ 表示の存在は知っているが注視するレベルではない

知識がないから見たとしても分からない

- ✓ 知識がないから見てもそうなんだという程度
- ✓ 悪い情報は目につくので見る程度
- ✓ 身の回りの人が表示を見て、控えることがある程度

自分の気になるところは見ている

- ✓ 健康成分やカロリーなどは気になるので見る

② 栄養成分表示を見ない理由

栄養成分表示を参考にしている者が【栄養成分表示を見ない理由】としては、[文字が見つづらいのが一番]、[どこに書いてあるか分かりづらい]、[日本の表示は情報量が多すぎる]、[途中で改行されたりすると読む気が失せる]、[1回の目安量で表記されていない]などの理由から、〈今の表示が見つらく読む気が失せる〉というものであった。また、[文字が細かすぎて見つらいというものもあるが、いちいちスーパーで老眼鏡をかけるのも手間だし、混んでいると迷惑になる]など、[文字が細かすぎて老眼鏡をかけるのが手間]という理由や[それを手に取って購入をやめたときにそれを戻すのが嫌ということがある]、[手に取ったものを戻すのに気を遣う。それを触らずに見られれば一番いい。手に取ったものを戻すのもちょっと嫌]などの[表示を見るため手に取り、棚に戻すのが嫌]という理由で、〈手軽に見ることができない〉ことが指摘された。

栄養成分表示を参考にしていない者については、〈ネットだと表示されていない〉こと、そもそも〈気にしていない〉こと、〈食べるを優先してあえて見ない〉こと、〈その手間が面倒〉なこと、〈見にくいので見ようという気が起こらない〉こと、〈見ても分からないし役立たない〉という理由が挙げられた。また、〈見にくいので見ようという気が起こらない〉など、参考にしていない者であったとしても、栄養成分表示の見にくさを経験していた。

<栄養成分表示を参考にしている者>

今の表示が見つらく読む気が失せる

- ✓ 文字が見つづらいのが一番
- ✓ どこに書いてあるか分かりづらい
- ✓ 日本の表示は情報量が多すぎる
- ✓ 途中で改行されたりすると読む気が失せる
- ✓ 1回の目安量で表示されていない

手軽に見ることができない

- ✓ 文字が細かすぎて老眼鏡をかけるのが手間
- ✓ 表示を見るため手に取り棚に戻すのが嫌

<栄養成分表示を参考にしていない者>

ネットだと表示されていない

- ✓ ネットで買うので表示を見る機会がない

気にしていない

- ✓ そもそも関心がない
- ✓ そこまで気が回らない
- ✓ 何を買うか決めているので判断材料にならない
- ✓ 病気がないから関心がない
- ✓ 人生長く生きてきたので今更気にしない

食べるを優先してあえて見ない

- ✓ 外食では楽しむためにあえて見ない
- ✓ よく分からないので食べたかったら食べる

その手間が面倒

- ✓ 裏面をひっくり返してまで見ない
- ✓ ひとつずつ見るのは面倒

見にくいので見ようという気が起こらない

- ✓ 文字が小さすぎる
- ✓ パッケージの色に対して文字の色が見にくい

見ても分からないし役立たない

- ✓ 知識がなく見ても分からない
- ✓ 見ても意味をきちんと理解していない
- ✓ 加工食品から栄養素を摂取する割合が少ないので役立たない

③ 栄養成分表示を活用しない理由

栄養成分表示を参考にしている者が【栄養成分表示を活用しない理由】としては、[表示を見ても自分の栄養素必要量が分かっていない] こと、[何グラム増量といってもその基準が分からない] など、〈数値の意味が分からない〉というものであった。また、[いろいろなものが混ざっているので、料理モノだとこれを作るとどれだけの食塩が入って、脂質がどれぐらいになるとか、それが書いてあったらいいとは思うけれど、それを自分で活用するかというと面倒くさくてしないと思う] など [結局面倒に感じる] こと、[パンとかビールはそのまま消費するから表示を受け入れるけど、家で料理に使うものだと使いづらい。あっても意味ないというか] など、[家の料理に使う物だと意味がない] ことなど、〈負担が多いわりにメリットを感じない〉という理由が挙げられた。

< 栄養成分表示を参考にしている者 >

数値の意味が分からない

- ✓ 表示を見ても自分の栄養素必要量が分かっていない
- ✓ 何グラム増量といってもその基準が分からない

負担が多いわりにメリットを感じない

- ✓ 結局面倒に感じる、家の料理に使う物だと意味がない

④ 栄養成分表示が分かりにくい原因

栄養成分表示を参考にしていない者が【栄養成分表示が分かりにくい原因】としては、〈表示が不親切〉、〈栄養素と数値の意味が分からない〉ことが挙げられた。特に、〈表示が不親切〉な具体例としては、[やっぱり文字が小さく文字数が多い] ことや、[文字の色が見にくい]、[ゴチャゴチャしていてパッと分からない] こと、[食べる量で表示されていない] ことが指摘された。

< 栄養成分表示を参考にしていない者 >

表示が不親切

- ✓ やっぱり文字が小さく文字数が多い
- ✓ 文字の色が見にくい
- ✓ ゴチャゴチャしていてパッと分からない
- ✓ 食べる量で表示されていない

栄養素と数値の意味が分からない

- ✓ 栄養の知識がなく何なのかよく分からない
- ✓ 栄養成分の数値だけ出されても多いか少ないか分からない
- ✓ 自分の体の健康と栄養成分の数値が結びつかない

⑤ 分かりやすい表示にするための改善策

栄養成分表示を参考にしている者からの【分かりやすい表示にするための改善策】としては、〈親切な表示にする〉、〈情報量を適切にシンプルにする〉、〈消費者自ら判断でき

るようにする〉、〈統一したロゴ/マークにする〉ことが提案された。その内容としては、[1回の目安量あたりでの表示]、[1日の必要量に対するパーセンテージ表示]、[数値が高いか低いかの判断表示]、[一般的な食品の平均値と比べて高いか低いかを表示]、[食品の種類ごとに評価基準の設定]、[摂り過ぎを予防する表示]、[色・高いか低いかの判断・パーセンテージを組み合わせる]などであった。

栄養成分表示を参考にしていない者からは、〈親切な情報提供〉や〈包装前面栄養表示で一目で分かりやすい表示〉にすることが提案された。〈親切な情報提供〉では、[1回に摂取する目安量で表示する]などの現行制度でも実現可能なものから、[食品の種類によって表示するものを決める]という意見が挙げられた。その内容としては、[項目を厳選しアイコン化する]、[アイコンは統一する]、[カラフルにしてパッと分かりやすく]、[1日の必要量に対するパーセンテージを表示する]、[表示の場所を決める]、[正面だと購買意欲が湧かないので、サイドに表示する]などであった。

＜栄養成分表示を参考にしている者＞

親切な表示にする

- ✓ 大きく表示
- ✓ 包装の前面に表示
- ✓ 枠を太くして目立たせる
- ✓ 色盲の方でも見やすい文字の色
- ✓ 誤認識しないような強調表示

情報量を適切にシンプルにする

- ✓ 情報量を絞る
- ✓ 表示項目数は5個ぐらいでちょうど良い
- ✓ 数値も必要、視覚的にパッと分かりやすく

消費者自ら判断できるようにする

- ✓ 1回の目安量あたりでの表示
- ✓ 1日の必要量に対するパーセンテージ表示
- ✓ 数値が高いか低いかの判断表示
- ✓ 一般的な食品の平均値と比べて高いか低いかを表示
- ✓ 食品の種類ごとに評価基準の設定
- ✓ 摂り過ぎを予防する表示
- ✓ 色・高いか低いかの判断・パーセンテージを組み合わせる

統一したロゴ/マークにする

- ✓ ロゴを統一
- ✓ トクホみたいなお墨付きマークの付与

＜栄養成分表示を参考にしていない者＞

親切な情報提供

- ✓ 1回に摂取する目安量で表示する
- ✓ 数値が必要な人もいるので、数値を残す
- ✓ 食品の種類によって表示するものを決める

包装前面栄養表示で一目で分かりやすい表示

- ✓ 項目を厳選しアイコン化する
- ✓ アイコンは統一する
- ✓ カラフルにしてパッと分かりやすく
- ✓ 1日の必要量に対するパーセンテージを表示する
- ✓ 表示の場所を決める
- ✓ 正面だと購買意欲が湧かないので、サイドに表示する

⑥ パッケージ以外の取組

栄養成分表示を参考にしている者からの【パッケージ以外の取組】としては、〈知りたい人が更に情報を取得できるようにする〉ために、[POPを活用する] こと、[バーコードを活用する] こと、[二次元コードを活用する] ことが提案された。さらに、[自分の必要量の基準値を知る] ために〈専門家からの教育〉が求められていた。

栄養成分表示を参考にしていない者からは、[さらに必要な情報は二次元コードで表示する]、[知りたい人とそうでない人を分けて情報提供する]、[二次元コードを使い食事管理アプリに活かす] ことが提案された。

< 栄養成分表示を参考にしている者 >

知りたい人が更に情報を取得できるようにする

- ✓ POPを活用する
- ✓ バーコードを活用する
- ✓ 二次元コードを活用する

楽しみながら自己管理できるようにする

- ✓ ゲーミフィケーションを導入する
- ✓ 食事管理アプリと連携する

専門家からの教育

- ✓ 自分の必要量の基準値を知る

< 栄養成分表示を参考にしていない者 >

必要性に応じた適切な情報提供

- ✓ さらに必要な情報は二次元コードで表示する
- ✓ 知りたい人とそうでない人を分けて情報提供する
- ✓ 二次元コードを使い食事管理アプリに活かす

⑦ 表示を改善した場合の予想される変化

栄養成分表示を参考にしている者が【表示を改善した場合の予想される変化】としては、〈購買行動は変化する〉という意見と〈購買行動は変化しない〉という意見が挙げられた。また、〈購買行動が変化する〉場合であっても、[評価の低いものなら気にして参考にする]、[評価の低いものなら買う頻度や量が減る]、[評価の低いものでも好きなものを食べて他で調整する]、[病気になったら評価の低いものは気にする]という意見が挙げられた。〈購買行動は変化しない〉場合、[むしろ評価の低いものだと分かって買う]などの意見が挙げられた。

栄養成分表示を参考にしていない者からも、〈消費者の意識が高まる〉ことや〈購買行動が変化する〉という意見が挙げられた。特に[評価の低いものは購入する頻度を減らす]、[評価の低いものはストックしなくなる]、[評価の低いものは買わない]などの意見が挙げられた。

< 栄養成分表示を参考にしている者 >

購買行動は変化する

- ✓ 評価の高いものを選ぶようにする
- ✓ 評価の低いものなら気にして参考にする
- ✓ 評価の低いものなら買う頻度や量が減る
- ✓ 評価の低いものでも好きな物を食べて他で調整する
- ✓ 病気になったら評価の低いものは気にする

購買行動は変化しない

- ✓ 慣れている商品は評価の低いものでも選ぶ
- ✓ むしろ評価の低いものだと分かって買う
- ✓ 評価の低いものでも気にせず買う

包装前面栄養表示の導入による副次的効果がある

- ✓ 消費者の健康意識が高まる
- ✓ 取り組む企業のイメージがアップする

< 栄養成分表示を参考にしていない者 >

購買行動が変化する

- ✓ 評価の低いものは購入する頻度を減らす
- ✓ 評価の低いものはストックしなくなる、
- ✓ 評価の低いものは買わない

今までと変わらない

- ✓ 買う頻度は変わらない
- ✓ 好きなものを食べればいいのでどっちでもいい

消費者の意識が高まる

- ✓ 話題になり健康意識が高まる

⑧ 表示を改善したとしても起こり得る課題

栄養成分表示を参考に行っている者からの【表示を改善したとしても起こり得る課題】としては、FOPNL が「義務表示になった場合のコストが心配」とされていた。また、〈二次元コードの導入には工夫が必要〉とされ、〈むしろ二次元コードの導入は慎重にして欲しい〉という意見が挙げられた。特に「メーカーのウェブサイトにつながるだけの二次元コードだったらあまり活用のしようがないということ。健康のサイトにつながって今日食べたものの評価が得られるとか、献立とかを考えるときのカロリーの抑え方とか、メーカーが協力してやりたくなるような全体的な制度として発展するならいいなと思う」ことや「二次元コードは一つのサイトにまとめられていたらやろうとは思いますが、企業別になっていたらやらない。一元化されていれば」など、「メーカーにつながるだけならやらない」という意見が挙げられた。「もし二次元コードでやるとしたら、ポイ活とか、ポイントがもらえるということがあったらやろうと思うが、何もないのにやらないと思う」など、「二次元コードをやるならインセンティブを導入」するなどの工夫や「やりにくいのでパッケージで完結して欲しい」などの意見も挙げられた。

栄養成分表示を参考に行っていない者からは、「表示を増やすことによるコスト・値上がり」が心配、「義務が任意にするかで良い点と悪い点が生まれる」という意見が挙げられた。特に、「任意表示か義務表示かで言えば、表示している企業というのは消費者に対して健康を気遣っているいいメーカーで、逆に何もやらないメーカーは安かろう悪かろうでやっているメーカーだ」という感じで、消費者側の一つの判別になる」などの意見が挙げられた。

< 栄養成分表示を参考に行っている者 >

包装前面栄養表示の位置付けによるコスト

- ✓ 表示の位置付けによって良い面も悪い面もある
- ✓ 義務表示になった場合のコストが心配

二次元コードの導入には工夫が必要

- ✓ 購入前にやるのはハードルが高い
- ✓ メーカーのウェブサイトにつながるだけならやらない
- ✓ 二次元コードをやるならインセンティブを導入

むしろ二次元コードの導入は慎重にして欲しい

- ✓ やりにくいのでパッケージで完結して欲しい
- ✓ コストによって価格が上がるのが心配

< 栄養成分表示を参考に行っていない者 >

表示方法を変えることで起こり得る課題

- ✓ 表示を増やすことによるコスト・値上がりが心配
- ✓ 義務が任意にするかで良い点と悪い点が生まれる

表示方法を変えること以外での課題

- ✓ パーセンテージ表示は基準が人によって違う
- ✓ インセンティブがないと二次元コードは見えない
- ✓ 二次元コードの情報は見えないと思う
- ✓ 包装前面栄養表示をしても見えない人は見えない
- ✓ 消費者への啓蒙が大事だと思う

(2) 管理栄養士・食品関連事業者

① 食品表示との関わり

管理栄養士の【食品表示との関わり】については、[エネルギーと食塩を中心によく見る]、[物によってはたんぱく質や糖質も見ると] など〈栄養成分表示をよく見る〉こと、そして〈食品選択の判断材料にしている〉ということであった。また、〈その他の食品表示もよく見る〉ようにし、〈仕事に活かすためによく見る〉者が多かった。例えば[腎臓病患者さんなどによく聞かれるのでよく見るようにし、仕事に活かしている]ということであった。

食品関連事業者については、〈よく見て参考にしている〉者が多く、そして〈参考にしている表示〉としては、[義務表示以外のところをよく見て参考にしている]、[アレルギー表示に特に関心がある]ということであった。また、〈ラベラーの性能の把握〉のために[小規模の事業者の表示からラベラーの(性能の)限界を参考にしている]という者もいた。その中で、[表示を担当する者として、良くない表示を見かける]、[完全栄養食という表現は、消費者に誤解を与える]のではないかと感じているという意見も挙げられた。

<管理栄養士>

栄養成分表示をよく見る

- ✓ エネルギーと食塩を中心によく見る
- ✓ 物によってはたんぱく質や糖質も見ると

食品選択の判断材料にしている

- ✓ 表示をよく見て、商品を選択するための判断材料にしている

その他の食品表示もよく見る

- ✓ 原材料や期限表示、価格など他の表示もよく見る

仕事に活かすためによく見る

- ✓ 腎臓病患者さんなどによく聞かれるのでよく見るようにし、仕事に活かしている

<食品関連事業者>

よく見て参考にしている

- ✓ 他社の表示が参考になるのでよく見る

参考にしている表示

- ✓ 義務表示以外のところをよく見て参考にしている
- ✓ アレルギー表示に特に関心がある

ラベラーの性能の把握

- ✓ 小規模の事業者の表示からラベラーの限界を参考にしている

この表示は良くないと思うことがある

- ✓ 表示を担当する者として、良くない表示を見かける
- ✓ 完全栄養食という表現は、消費者に誤解を与える

② 栄養成分表示が分かりにくい原因

管理栄養士については【栄養成分表示が分かりにくい原因】として、第一に〈100g の表示は誤解を生む〉ということが挙げられた。単に「100g の表示なので換算するのが面倒」ということに留まらず、「精神疾患や障害者、認知症の方などは 100g 表示だと誤解する」という意見も挙げられた。第二に〈弁当や総菜の表示はないか、あっても見にくい〉ということが挙げられた。その原因としては、「スーパーの総菜など店内加工の商品では栄養成分表示をしなくてもよいことになっている」ことから「店内加工の食品には表示されていないこともある」ことや「ラベラーの性能の限界で表示が小さく見えづらい」ということであった。特にラベルを印字する機器（ラベラー）の性能の限界と「お弁当や総菜などは、商品をひっくり返すことができないのに、裏に表示があるので、下から覗き込むようにしている」など弁当や総菜という料理の特性上のために生じている問題が挙げられた。また、「制度が複雑なので分かりやすくすることが困難」であり、特に「直売所などの小規模の事業者には分かりやすさの工夫を求めるのは難しい」ことも指摘された。

食品関連事業者については、第一に〈表示の見た目の悪さ〉であり、「文字の太さが細い」こと、「表示可能面積に限界があり文字が小さくなる」こと、「数字が半角表記で見えにくい」こと、「数字の桁数が細かい表示で読みにくい」ということが挙げられた。第二に〈表示方法がよくない〉ということで、「100g 表示で不親切感がある」ことが挙げられた。その一方で、「栄養成分表示を 100g で表示しているのは、商品の内容量を減らしたり、増量したりした場合であっても、版下を変える手間やコストがないため、100g で統一した方がメーカー側としてはメリットがあるからだと思う」ことから、「内容量を増減しても 100g 表示だと手間がかからない」という理由が挙げられた。他方、「長期保存や調理による成分変化への対応法が分からない」ということ、「栄養学の進歩によって、今までの定説と変わることがある。本当に正しいのかという判断も常に更新しなければいけないので、誤解がないようなルールが欲しい」などの「ルールが見直されていない」こと、そして「成分表（八訂）への対応方法が不明」であることが〈ルールがあいまいでメーカーに解釈が任されている〉と意見が挙げられた。また、「アレルギー表示や注意喚起など他の表示を目立たせている」こと、「他の表示を優先し、見えづらい所に表示」していること、「法定表示と遠い場所に表示」していること、「企業オリジナルの表示が多くなり伝わりにくい」ということが挙げられた。

<管理栄養士>

100gでの表示は誤解を生む

- ✓ 100gの表示なので換算するのが面倒
- ✓ 精神疾患や障害者、認知症の方などは100g表示だと誤解する

弁当や惣菜の表示はないか、あっても見にくい

- ✓ 店内加工の食品には表示されていないこともある
- ✓ ラベラーの性能の限界で表示が小さく見えづらい

制度が複雑なので分かりやすくすることが困難

- ✓ 栄養強調表示は複雑なので、混乱を招いている
- ✓ 直売所などの小規模の事業者には分かりやすさの工夫を求めるのは難しい

<食品関連事業者>

表示の見た目の悪さ

- ✓ 文字の太さが細い
- ✓ 表示可能面積に限界があり文字が小さくなる
- ✓ 数字が半角表記で見えにくい
- ✓ 数字の桁数が細かい表示で読みにくい

表示方法がよくない

- ✓ 100g表示で不親切感がある
- ✓ 内容量を増減しても100g表示だと手間がかからない
- ✓ 小規模の事業者などは表示作成に不慣れ
- ✓ ポーションサイズを何gにすべきか分からない

ルールがあいまいでメーカーに解釈が任されている

- ✓ 長期保存や調理による成分変化への対応方法が分からない
- ✓ ルールが見直されていない
- ✓ 成分表（八訂）への対応方法が不明

他の表示に比べ目立たない

- ✓ アレルゲン表示や注意喚起などの他の表示を目立たせている
- ✓ 他の表示を優先し、見えづらい所に表示
- ✓ 法定表示と遠い場所に表示
- ✓ 企業オリジナルの表示が多くなり伝わりにくい

見えづらいと認識されつつ販売されている

- ✓ ラベラーの性能の限界でシールが長くなる
- ✓ 小売店での陳列方法によっては見えにくくなる

③ 栄養成分表示を分かりやすくする工夫

管理栄養士からの【栄養成分表示を分かりやすくする工夫】としては、〈表示の見た目の改善〉、〈1個当たりと100g表示、それぞれのメリット〉があり併記すること、〈必要量に対する割合を示す〉こと、〈対象となる食品や栄養成分を見直す〉こと、〈ラベラーの性能を上げる〉こと、〈弁当や惣菜にも表示をする〉こと、〈包装への表示以外で情報提供する〉こと、〈適切な利用につなげる取組をする〉ことが挙げられた。特に「100g表示だと商品を比較しやすい」というメリットが挙げられた。また〈必要量に対する割合を示す〉場合には、ターゲットによって必要量が異なるという問題が生じる可能性があるため、〈必要量に対する割合を示す〉場合には、「食塩6g/日や野菜350g/日など全世代共通のものは基準量に対する割合で表示する」ということが提案された。そして、栄養成分表示が義務表示されている5項目以外に、「カリウムについては、積極的にとってほしい人も、控える人もいるので、栄養成分表示に加えてもらえると助かる。栄養相談するときにも役立つ」など、「高血圧や腎臓病など、気をつける人もいるのでカリウムを追加」することが提案された。

食品関連事業者については、とにかく〈目立たせる〉ことが挙げられた。「文字のフォントを変える」、「栄養成分表示を枠で括る」、「目立つデザイン」、「法定表示同士を近づける」、「企業オリジナルの基準規定外の表示を整理して法定表示に誘導する」など表示を作る側からの意見が挙げられた。また、〈消費者の意見を反映する〉ために、「こんなのがあったらいいな」という一般消費者の要望や御意見を参考に、メーカーも努力していただく必要があると思う」や、「病気を持った人から、他の特定の栄養素の栄養成分表示をしてほしい」という要望を受けたことがある。そういう要望があれば、メーカー側も応えて

表示している現状もある〕など、〔ユーザーの意見を聞き、取り入れていく〕ことの必要性を感じていた。そして、〔消費者は、栄養成分表示をなぜ分かりにくいと思っているのか、メーカーとして知りたい。分かりにくい理由が栄養の知識の問題なのか、表示が目立たないからなのか。その理由が分かれば、メーカーで解決できる案も検討できると思う〕や〔食品メーカーが消費者への教育を行えるかというできない。「栄養成分表示が分かりにくい」という御意見の意味はどういうことかを考えるのが重要だと思う〕などの〔分かりにくいという理由を考える〕ことも必要だと捉えていた。

< 管理栄養士 >

表示の見た目の改善

- ✓ 文字は小さいよりは、大きいほうが色々な人にとって良い
- ✓ 栄養成分表示は横書きにして枠で括る
- ✓ 適切な位置で改行する

1個当たりと100g表示、それぞれのメリット

- ✓ 1個当たりでの表示にする
- ✓ 100g表示だと商品を比較しやすい

必要量に対する割合を示す

- ✓ 1日の必要量に対する割合を示す
- ✓ 1日の必要量に対する割合の表示は、グラフで表示する
- ✓ ターゲットを決め、ターゲットの食事摂取基準に対する割合で表示する
- ✓ 食塩6g/日や野菜350g/日など全世代共通のものは基準量に対する割合で表示する

対象となる食品や栄養成分を見直す

- ✓ 食品のジャンルによって表示の細かさや情報量を変える
- ✓ 高血圧や腎臓病など、気をつける人もいるのでカリウムを追加

ラベラーの性能を上げる

- ✓ ラベラーの性能を上げると表示でできることが増える

弁当や惣菜にも表示をする

- ✓ 弁当や惣菜など店内加工の食品には必ず栄養成分表示をする

包装への表示以外で情報提供する

- ✓ バーコードでスキャンして栄養量が分かるようにする
- ✓ 二次元バーコードで情報を提供
- ✓ 栄養成分表示の表記方法を統一するのは難しいのでPOPで情報提供する

適切な利用につなげる取組をする

- ✓ 栄養素必要量を計算できるアプリを開発する
- ✓ 専門家への相談につなげる一文を表示する

< 食品関連事業者 >

目立たせる

- ✓ 文字のフォントを変える
- ✓ 栄養成分表示を枠で括る
- ✓ 目立つデザイン
- ✓ 法定表示同士を近づける
- ✓ 企業オリジナルの基準規定外の表示を整理して法定表示に誘導する

理解されやすい表示にする

- ✓ 表示値をなるべく整数にする
- ✓ ポーションサイズで表示

消費者の意見を反映する

- ✓ ユーザーの意見を聞き、取り入れていく
- ✓ 分かりにくいという理由を考える

更に情報提供する

- ✓ WEBで追加情報を提供
- ✓ 飽和脂肪酸などネガティブな情報も開示する

④ 包装前面栄養表示の表示方法

管理栄養士からは【包装前面栄養表示の表示方法】として、〈包装前面に分かりやすく表示する〉、〈書き方を統一する〉ことに加えて、[食塩は国全体で取り組む課題なので食塩に特化する]ということから〈食塩に特化する〉ことが提案された。さらに、[食堂の給食メニューにも付け、普及・啓発につなげる]という意見から〈給食でも表示する〉ことが提案された。

食品関連事業者からは〈基準を決め、スコアリング型かお墨付きマーク型〉による表示が提案された。また、〈包装前面栄養表示の位置付け〉としては[義務表示は難しい]ことから、推奨表示や任意表示の取組を要望していた。そして、〈表示する項目数〉は[実行可能性も含め5項目で十分]とする意見や[日本の栄養政策と一致させ減塩に特化]することが提案された。

<管理栄養士>

包装前面に分かりやすく表示する

- ✓ 意識していない人も見るようなパッと見て分かりやすい表示
- ✓ 前面で完結した表示

書き方を統一する

- ✓ 統一された書き方にする
- ✓ 色で表示すると捉え方が人によって違うので統一したマークにする

食塩に特化する

- ✓ 食塩は国全体で取り組む課題なので食塩に特化する

給食でも表示する

- ✓ 食堂の給食メニューにも付け、普及・啓発につなげる

<食品関連事業者>

基準を決め、スコアリング型かお墨付きマーク型

- ✓ 食品のジャンルでスコアリングする
- ✓ お墨付きマーク型にする

包装前面栄養表示の位置付け

- ✓ 義務表示は難しい

表示する項目数

- ✓ 栄養成分表示5項目以外も含めたスコアリング
- ✓ 実行可能性も含め5項目で十分
- ✓ 日本の栄養政策と一致させ減塩に特化

⑤ FOPNL 包装前面栄養表示導入時の専門家から見た懸念事項

管理栄養士からの【包装前面栄養表示導入時の専門家から見た懸念事項】については、〈色での表示は難しい〉、〈小規模の事業者では表示が難しい〉、〈スコアや基準量は人によって異なる〉、〈購買意欲が低下する人もいれば、変わらない人もいる〉、〈栄養成分表示があまり役立たない食品がある〉、〈不適切な POP が生まれる〉ことが指摘された。

食品関連事業者については[包装前面栄養表示は強調表示に該当するか]ということや〈表示のデザイン〉についての意見が挙げられた。[FOPNL の表記を色指定されると非常に負担がかかる。色数で包材の値段が変わる。また、ラベラーはどうしても一色が限界なので、カラー指定されると、FOPNL のハードルが高くなる。FOPNL が普及しない理由にもなりかねない]や、[FOPNL の表記を白黒と指定する場合であっても、取り組みにくい。文字を黒くすると背景の色も変更しなければいけなくなってくる]など[表示は色指定しないで欲しい]という意見や[表示するロゴの大きさも決められてしまうとメーカーに嫌がれるなどと思う。デザインの的にも無理が生じる場合もあるかもしれない]など、[ロゴの大きさを指定しないで欲しい]という意見が挙げられた。また、[今

の商品のパッケージの前面に表示するとなると、今でも表示すべき事項がギリギリなので、小さい表示になると思う。それで本当に見えるのか。書いてありますよとアピールはできると思うが、この表示を見て何か役立つのか疑問に思う部分もある」など、[包装前面栄養表示も結局小さい表示になる可能性がある] など、〈果たして意味ある包装前面栄養表示になるか〉ということも指摘された。また、FOPNL が閾値・カテゴリー又はスコアリング型であった場合には、〈メーカーのジレンマ〉として[どうしても低い評価になる食品のジャンルが生まれる]ため、[任意だと評価の低いものには表示されない]ことや、[評価が高くなるように内容量を調整しかねない]ということが懸念された。また、[栄養成分表示をむしろ見なくならないか心配]されること、[評価の高いものを選べば量を食べても大丈夫という風潮になりかねない]ということなど〈社会への悪影響〉も指摘された。

<管理栄養士>

色での表示は難しい

- ✓ 色での表記は人によって捉え方が違う
- ✓ 色での表記はカラー印刷できる業者ばかりではない

小規模の事業者では表示が難しい

- ✓ 小規模の事業者では統一したマークですら難しい
- ✓ 1日の必要量に対する割合表示のグラフは小規模の事業者では難しい

スコアや基準量は人によって異なる

- ✓ スコア型の表示は誰にとってのスコアが分かりにくい
- ✓ 1日の必要量に対する割合の表示は、基準量がそれぞれ違い、逆に分かりにくい

購買意欲が低下する人もいれば、変わらない人もいる

- ✓ 統一された栄養成分表示は堅苦しく、購買意欲が落ちるかもしれない
- ✓ 購買意欲は変わらないか、むしろ比較するときにあるとよい

栄養成分表示があまり役立たない食品がある

- ✓ 弁当など1食で食べる物でなければ、栄養成分表示はあまり役立たない

不適切なPOPが生まれる

- ✓ POPでの表示は自由度が高くなりすぎ、不適切な表示が生まれやすい

<食品関連事業者>

現行制度との整合性

- ✓ 包装前面栄養表示は強調表示に該当するか
- ✓ 包装前面栄養表示は推定値でも認めて欲しい

表示のデザイン

- ✓ 表示は色指定しないで欲しい
- ✓ ロゴの大きさを指定しないで欲しい

果たして意味ある包装前面栄養表示になるか

- ✓ 包装前面栄養表示も結局小さい表示になる可能性がある
- ✓ 1日の必要量に対する%表示は人によって必要量が違う
- ✓ 栄養成分表示に誘導するような表示にならない

メーカーのジレンマ

- ✓ どうしても低い評価になる食品のジャンルが生まれる
- ✓ 任意だと評価の低いものには表示されない
- ✓ 任意でも大手がやれば小規模の事業者にも求められることが心配
- ✓ 評価が高くなるように内容量を調整しかねない

社会への悪影響

- ✓ 栄養成分表示をむしろ見なくならないか心配
- ✓ 評価の高いものを選べば量を食べても大丈夫という風潮になりかねない

⑥ 栄養成分表示が正しく活用されるための方策

管理栄養士からの【栄養成分表示が正しく活用されるための方策】については、〈普及・啓発活動の実施〉として「小さい頃からの栄養に関する教育」や「消費者への教育」が挙げられた。また、〈教育すべきことの具体〉は「栄養成分表示を見ても、飽和脂肪酸は控えるとか、食物繊維だと積極的に摂るとか、知識のない方だと、それすら分からない場合もあると思うので、やはり知識の普及や啓発が大切なのではないかと思う」など、「控えるものや積極的に摂るべき栄養素の知識」、「個々人に必要な栄養量」の知識及び「表示の使い方」が挙げられた。

食品関連事業者については「学校教育の中での教育」と「消費者への教育」という〈普及・啓発活動の実施〉に対する意見が挙げられた。また、〈教育すべきことの具体〉として「法定表示の読み方」、や「包装前面栄養表示の使い方」及び「評価の低い食品の取り入れ方」などが挙げられた。

<管理栄養士>

普及・啓発活動の実施

- ✓ 小さい頃からの栄養に関する教育
- ✓ 消費者への教育

教育すべきことの具体

- ✓ 控える物や積極的に摂るべき栄養素の知識
- ✓ 個々人に必要な栄養量
- ✓ 表示の使い方

<食品関連事業者>

普及・啓発活動の実施

- ✓ 学校教育の中での教育
- ✓ 消費者への教育

教育すべきことの具体

- ✓ 法定表示の読み方
- ✓ 包装前面栄養表示の使い方
- ✓ 栄養素必要量の基準値
- ✓ 数字の意味
- ✓ 評価の低い食品の取り入れ方

第4章 我が国における包装前面栄養表示の検討の方向性

食品表示法（平成 25 年法律第 70 号）において、第 3 条に、「販売の用に供する食品に関する表示の適正を確保するための施策は、消費者基本法（昭和 43 年法律第 78 号）第 2 条第 1 項に規定する消費者政策の一環として、消費者の安全及び自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、並びに消費者に対し必要な情報が提供されることが消費者の権利であることを尊重するとともに、消費者が自らの利益の擁護及び増進のため自主的かつ合理的に行動することができるよう消費者の自立を支援することを基本として講ぜられなければならない。」と基本理念が示されている。この基本理念を踏まえて、2015（平成 27）年から容器包装に入れられた一般用加工食品及び添加物には、食品表示基準に基づき栄養成分の量及び熱量の表示（以下「栄養成分表示」という。）が義務付けられ、消費者のふだんの食生活において利活用されている。

しかしながら、消費者庁が実施した「令和 4 年度食品表示に関する消費者意向調査」では、食品に栄養成分表示がされていることを知っている者の割合は約 7 割にとどまっている。また、知っていると回答した者の中で、ふだんの食生活で栄養成分表示を参考にしていない者の割合は約 4 割に上っており消費者が栄養成分表示を一層利活用しやすくする取組が求められている。

1. 我が国の健康・栄養政策との整合を踏まえた上で、包装前面栄養表示として取り組むべき栄養課題

（1）健康・栄養政策と連携した食環境づくりの推進

我が国の健康・栄養政策である健康日本 21（第三次）において、栄養・食生活は「多くの生活習慣病の予防・重症化予防のほか、やせや低栄養等の予防を通じた生活機能の維持・向上の観点からも重要である。さらに、個人の行動と健康状態の改善を促すための適切な栄養・食生活やそのための食事を支える食環境の改善を進めていくことも重要」と示されている。

厚生労働省は「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」報告書（以下「検討会報告書」という。）や東京栄養サミット 2021 における日本政府のコミットメントを踏まえ、産学官等連携による推進体制として「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」を 2022（令和 4）年 3 月に立ち上げた。同イニシアチブでは、減塩の推進等の栄養面での視点を軸としつつ、事業者が行う環境面に配慮した取組にも焦点を当て、誰一人取り残さない食環境づくりを推進している。なお、検討会報告書及び同イニシアチブでは「食環境づくり」について、「人々

がより健康的な食生活を送れるよう、人々の食品へのアクセスと情報へのアクセスの両方を相互に関連させて整備していくものをいう。」と定義している。

その一方で、消費者の食品へのアクセスや情報へのアクセスの向上については、厚生労働省のみの取組で実現することは困難であり、関連施策との協働が不可欠である。検討会報告書では「厚生労働省と関係省庁が連携した栄養政策の推進により、活力ある持続可能な社会が構築されていくことを強く期待する」と提言されている。健康・栄養政策と栄養成分表示などの関連施策の連携を一層強化することは、消費者自身が適正体重の維持や食塩摂取量の減少等の取組を継続しやすい、自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に資することが期待される。したがって、この提言を踏まえて、消費者庁においても消費者にとって分かりやすい栄養成分表示への改善や日本版 FOPNL の取組を検討することが望まれる。

(2) 諸外国等における FOPNL の動向

望ましい栄養・食生活の形成に対する関心の高まりから、諸外国では栄養成分表示に加え、包装前面に栄養に関して分かりやすく消費者に訴求する表示を導入する動きが活発化している。このような動向を背景に、FOPNL は消費者の健康的な食品選択を助けるための諸外国における重要なツールとして 2019（令和元）年に WHO が FOPNL ガイドラインを公表している。また、コーデックス委員会においては 2015（平成 27）年の第 43 回食品表示部会から議論を開始し、2021（令和 3）年 11 月に FOPNL ガイドラインを採択している。WHO 及びコーデックス委員会のガイドラインでは FOPNL は健康・栄養政策に沿ったものであるべきであること、各国で政府が推奨する FOPNL は一つだけであるべきであることが規定されているところ、我が国において、自主的な取組として FOPNL を採用する食品関連事業者も存在するため、FOPNL の在り方等を検討すべきタイミングを迎えている。

(3) 我が国の栄養課題を解決するために重要な栄養成分等

現在の栄養成分表示においては、次の 3 つの全ての観点を満たす栄養成分の量及び熱量（以下「栄養成分等の量」という。）を義務表示に位置付けるものと考え方を整理した上で、2015（平成 27）年 4 月 1 日に食品表示法を施行し、容器包装に入れられた一般用加工食品には栄養成分表示として、熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（食塩相当量に換算したもの）の量を必ず表示することとしている。

- 消費者の摂取状況等を踏まえた消費者への表示の必要性があること
- 事業者にとって表示が実行可能であること
- 国際基準と整合していること

これらの義務表示に位置付けられている熱量及びエネルギー産生栄養素であるたんぱく質、脂質、炭水化物の量は消費者の適正な体重の維持に資する情報として、また、食塩相当量は食塩摂取量の減少に資する情報として、健康日本 21（第三次）の栄養・食生活の目標にも関連するものである。しかしながら、冒頭の消費者意向調査が示すとおり、これらの栄養成分表示が消費者に十分に利活用されているとは言い難い状況である。こうした点を踏まえ、日本版 FOPNL の対象となる栄養成分等については、義務表示に位置付けられている熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（食塩相当量に換算したもの）とすることが適当である。

2. 消費者がふだんの食生活において栄養成分表示を利活用しやすくするために効果的な方策

(1) 栄養成分等の量の表示を利活用しやすくすること

消費者の適切な食品の選択を促す食環境づくりの観点から、現在の栄養成分表示は食塩相当量を比較して、食塩の少ない加工食品を選択できることなどにおいて役立っているが、消費者の適正体重の維持や食塩摂取量の減少等の取組を一層促すには、消費者自身が必要な栄養成分等の量を理解した上で、栄養成分表示をより利活用できるようにすることが必要である。その一方で、消費者自身が栄養成分等の摂取すべき目安となる量までを把握することは一般的には困難と考えられる。

こうした中、厚生労働省が策定している日本人の食事摂取基準の18歳以上の成人の推奨量等の性・年齢別の値を、人口に基づき加重平均した値である食品表示基準における栄養素等表示基準値を活用するなど、消費者自身が目安となる量を意識できるような取組は、栄養成分表示の分かりにくさを改善する一助となる可能性がある。したがって、日本版FOPNLの様式については、対象となる栄養成分等の量に加え、栄養素等表示基準値に占める当該栄養成分等の量の割合を表示することが適当である。

他方で、現在、栄養素等表示基準値については食塩相当量ではなくナトリウムの量であること、かつ、最新の日本人の食事摂取基準との整合が取れていない状況であることなどから、現在、厚生労働省において検討されている日本人の食事摂取基準（2025年版）の策定を踏まえ、2024（令和6）年度を目途に栄養素等表示基準値を見直すこととする。

(2) 消費者が利活用しやすい食品単位で表示すること

一部の食品において、栄養成分表示の食品単位が100g当たりである場合、内容量の単位が個数で表示されていると当該食品から摂取できる栄養成分等の量の概算が困難なものがあり、消費者が栄養成分表示を利活用できない場合もあると考えられる。そのため、日本版FOPNLにおいても消費者が使いやすい食品単位を設定することが求められる。したがって、日本版FOPNLにおいては、食品単位を当該食品の1食分であることを原則とし、1食分の量を合わせて表示することが適当である。ただし、消費者毎に1食分の量が異なるような食品で1食分の量を規定した場合、消費者にとって適切な情報提供とはならない可能性があることにも留意する必要がある。

また、栄養成分表示の食品単位と内容量の単位を一致させるなど、消費者が利活用しやすい栄養成分表示となるよう食品関連事業者に働きかけていくことが望ましい。

(3) 食品関連事業者の実情を踏まえて自主的な取組を推進すること

消費者の適正体重の維持や食塩摂取量の減少等の取組を促すためには、消費者自身の健康リテラシーや食文化に配慮するだけでなく、食品関連事業者の実行可能性も踏まえていくことが重要である。検討会報告書では、「多くの事業者が参画できるようにするためには、事業者がこの食環境づくりに主体的かつ意欲的に取り組めるように配慮することが重要」であるとしている。また、我が国においても食品関連事業者のFOPNLに関する自主的な取組はあるが、その取組数は少なく統一もされていない状況である。したがって、日本版FOPNLについては任意表示の取組として位置付けた上で、一定のルールが必要である。

(4) 消費者が表示を見つけやすくすること

食品表示基準において、食品表示は容器包装の見やすい箇所に表示することとされているが、実際の栄養成分表示の表示場所は容器包装の裏面であることが一般的である。また、栄養成分表示は食品表示基準の別記様式2又は3により表示することとされているが、当該様式と同等程度に分かりやすく一括して表示することを許容している。そのため、栄養成分表示の位置やその様式が食品によって異なり、消費者にとって当該表示を見つけにくい状況となっている可能性がある。こうした状況を踏まえ、日本版FOPNLは様式を統一することが望まれる。

また、栄養成分表示については、可能な限り食品表示基準別記様式2又は3を用いることや栄養成分表示を枠で囲むなど、消費者が現行の栄養成分表示を視認しやすくなる取組について食品関連事業者に働きかけていくことが望ましい。

(5) 視覚的に目立たせた表示を整理すること

我が国では、食品の栄養成分等の量について、その含有量を強調表示する場合、コーデックス委員会の栄養表示ガイドラインを踏まえて、食品表示基準において栄養強調表示が規定されている。そのため、高い、低いには言及しない日本版FOPNLは栄養強調表示には該当しない。その一方で、高い、低いには言及しないが、食品の容器包装の見やすい箇所に栄養成分とその含有量を大きく表示したものなど、消費者が栄養強調表示と誤認する可能性のある表示も存在することから、栄養強調表示には該当しないが視覚的に目立たせた表示の取扱いについても、別途、検討する必要がある。

3. 消費者への取組であることを優先しつつも、「健康的で持続可能な食環境づくり」の推進の観点から食品関連事業者の実行可能性が担保される方策（導入に向けて検討する際の主な検討課題）

（１） 対象外とすべき食品区分の検討

WHO の FOPNL ガイドラインにおいては、「FOPNL のためには栄養成分表示の義務化が前提条件である。」と規定されていることから、栄養成分表示の対象となる食品のうち、日本版 FOPNL の対象又は対象外とすべき食品区分の範囲を検討する必要がある。なお、栄養素等表示基準値は日本人の食事摂取基準の 18 歳以上の成人の推奨量等の性・年齢別の値を人口に基づき加重平均した値であることを踏まえると、病者用食品や乳児用調製乳などの特別用途食品やコーデックス委員会の FOPNL ガイドラインにおいても対象外食品として位置付けられている酒類については、日本版 FOPNL の対象として馴染まないものと考えられる。

（２） 摂取時の量との乖離が生じる塩蔵品や茶葉などの取扱い

栄養成分表示については、販売される状態における可食部分の栄養成分等の量を表示するものとしている。その一方で、例えば、塩抜きをする塩蔵品や、そのまま食さない茶葉など、販売時と摂取時の栄養成分等の量に乖離が生じる食品もある。そのため、日本版 FOPNL については、栄養成分表示には販売時の状態を表示した上で、標準的な調理方法を併記し、その表示値の合理的な根拠となる資料を保管することで、摂取時の状態の表示を許容することについて検討する必要がある。

（３） 日本版 FOPNL 導入の前提として、栄養成分表示の理解促進

コーデックス委員会の FOPNL ガイドラインにおいては、「FOPNL は政府の方針に沿って、消費者の FOPNL の理解・利用を促進するために、消費者教育・情報プログラムを伴うべきである。」と規定されている。消費者の適正体重の維持や食塩摂取量の減少等の取組を促すためには、消費者庁は関係省庁、地方公共団体及び関係団体と協力し、消費者と食品関連事業者の双方の理解が促進されるよう、日本版 FOPNL だけでなく現行の栄養成分表示についても、より一層普及啓発を行うことが求められる。

（４） 日本版 FOPNL 導入による健康・栄養政策上の効果等の評価項目

コーデックス委員会の FOPNL ガイドラインにおいては、「FOPNL は、監視及び評価して、有効性及び影響を判断すべきである。」と規定されている。例えば、消費者庁が毎年実施する食品表示に関する消費者意向調査でのフォローアップなど、日本版

FOPNL の評価をするための仕組みや目標設定についても検討した上で、評価していくことが求められる。

（５）栄養成分表示等の表示義務が課されていない生鮮食品や Electronic Commerce（以下「EC」という。）サイトへの展開、デジタル技術の活用の可能性

コーデックス委員会の FOPNL ガイドラインにおいては、「簡略化された栄養情報が食品の近くに表示される場合（例えば、棚札やフードサービス）、包装されていない食品又はオンラインで販売される食品（例えば、Web サイトで購入時に入手できる情報）のガイドとしても使用できる。」と規定されている。日本版 FOPNL についても、生鮮食品や棚札、EC サイトへの展開、デジタル技術における活用の可能性も視野に入れることも望まれる。

第5章 おわりに

本会合では、我が国における健康・栄養政策の動向や国際機関における FOPNL ガイドラインの公表などの栄養成分表示制度をめぐる事情を確認しつつ、一般消費者、管理栄養士、食品関連事業者へのインタビュー調査の結果も踏まえて、消費者にとって分かりやすい栄養成分表示への改善や我が国の FOPNL の取組について有識者による検討を実施し、我が国における FOPNL の検討の方向性を取りまとめた。

消費者庁においては、当該取りまとめを踏まえて、健康・栄養政策と栄養成分表示などの関連施策の連携を一層強化することによって、消費者自身が適正体重の維持や食塩摂取量の減少等の取組を継続しやすい、自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進を後押しすることが望まれる。その一方で、日本版 FOPNL の導入に当たっては、消費者の適切な食品の選択を促す食環境づくりに資するよう、更なる検討を進めていく必要がある。

「分かりやすい栄養成分表示の取組に関する検討会」構成員名簿

五十音順・敬称略

氏 名	所 属
阿部 絹子	公益社団法人 日本栄養士会 常務理事
○石見 佳子	東京農業大学 総合研究所 教授
坂口 景子	淑徳大学 看護栄養学部 栄養学科 講師
竹林 純	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 食品分析・表示研究室長
戸部 依子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー ・コンサルタント・相談員協会
中村 伸一郎	オール日本スーパーマーケット協会 常務理事
森田 満樹	一般社団法人 Food Communication Compass 代表
渡邊 健介	一般財団法人 食品産業センター 参与

○：座長

<オブザーバー>

厚生労働省

農林水産省

<インタビュー調査協力者>

加藤 勇太（松本大学 人間健康学部 健康栄養学科 准教授）

一般社団法人 食品表示検定協会

公益社団法人 日本栄養士会

「分かりやすい栄養成分表示の取組に関する検討会」開催経緯

	開催日	議題等
第1回	2023（令和5）年 11月2日	・ 栄養成分表示制度をめぐる事情について ・ 分かりやすい栄養成分表示の取組の推進に向けた検討の方向性及び主な論点について
第2回	2024（令和6）年 1月31日	・ 国内における食品関連事業者の自主的な取組について ・ 消費者等を対象とするインタビュー調査結果について ・ 日本版包装前面栄養表示の基本的な方向性について
第3回	2024（令和6）年 3月12日	・ 消費者等を対象とするインタビュー調査結果について（2） ・ 日本版包装前面栄養表示の基本的な方向性の中間取りまとめについて ・ 「分かりやすい栄養成分表示の取組に関する検討会」報告書（案）について